ISBN978-4-87354-689-6
C3082 ¥1800E

定価（本体1,800円＋税）

9784873546896

1923082018000

コミュニケーションのための英語音声学研究

山根　繁　著

関西大学出版部

コミュニケーションのための英語音声学研究

Studies in English Phonetics for Communication

山根　繁　著

関西大学出版部

はじめに

英語の教授法は様々な変遷を経て，1980 年代にはコミュニケーション能力の育成を中心としたコミュニカティブ・アプローチ（Communicative Approach）が提唱されるようになり，日本では現在，注目の教授法になっています。このアプローチでは，言語の主な目的をコミュニケーションと位置づけ，意思伝達のための言語を使用ができるようになることを目指しています。クラスでは母語の使用を限定的にして，目標言語を中心にタスクをベースとしたペア・ワークなどのアクティビティを行います。

また，2020 年度から中学校で導入される予定の文部科学省の新しい学習指導要領では，指導目標を「聞くこと，読むこと，話すこと［やり取り］，話すこと［発表］，書くことの五つの領域別に設定する」と規定するなど，「話すこと」の範疇を二種類に増すことで，4 技能の内「話すこと」に重きを置いた内容になっています。このことからも，コミュニケーション能力の育成を図ろうとする意図が見てとれます。

コミュニケーション能力に最も重要な要素の一つは，相手に情報を正確に伝えることです。いくら内容のあることを言っていても，発音に問題があるために意図が話し相手に伝わらなければ一方通行になり，コミュニケーションは成立しません。コミュニカティブ・アプローチの教授法では，発話の正確さよりも流ちょうさが重視されます。そのため，発音や文法の正確さが軽視される傾向があります。

このような日本の英語教育をめぐる社会的な背景を踏まえて，本書は『コミュニケーションのための英語音声学研究』と題し，英語学習者が意思伝達に必要となる発音力を育成することを目的にしています。加えて，大学院生，教育現場の教師，研究者が音声指導や発音研究を行うにあたり，必要不可欠な情報をまとめた実践的な指導書・研究書となることも目途としています。

本書の特徴は以下のとおりです。

1）各章の冒頭に「本章の目的」を示し，音声学習・研究項目を明示
2）学習者のために「発音のコツ」コーナーを設けたことで，わかりやすく発音学習が可能
3）英語発音に関する専門的な解説により，音声学の知識を身につけることが可能
4）音響音声学からの知見を取り入れ，音声波形など示すことで，音声を可視化
5）音声学に関わる最近の研究成果を紹介することで，発音研究に資するよう配慮
6）できるだけ，日本語音声と比較をしながら英語発音について議論
7）各章に「まとめ」を置き，重要事項の確認ができるよう工夫
8）各章の最後に配した「復習課題」を通じて，内容理解を促進

本書が英語の発音学習，音声指導，発音研究に役立つことを大いに期待しております。

本書の執筆にあたり，たくさんの方々にご支援を頂きました。関西大学外国語教育学研究科の学生のみなさんには，授業を通じて本書をまとめ上げるきっかけや多くの示唆を頂きました。また，同研究科の「山根ゼミ」のみなさんには出版前の原稿を読み込んでもらい，有益なコメントをたくさん頂きました。特に，後期課程の上野舞斗君とは本書の内容に踏み込んだ議論を行い，修正・改善を重ねることができました。

また，本書の出版は，関西大学研究成果出版助成金のご支援を受けて可能になりました。心より感謝致します。

2019 年 2 月

山根　繁

目次

はじめに…… i

第１章　英語の音声について …… 1
1.1　英語の音声とは …… 1
1.2　発音記号 …… 5
1.3　音節とモーラ …… 9
1.4　分節素と超分節素 ……14
1.5　第 1 章のまとめ ……15

第２章　音を見る ……17
2.1　音が伝わるしくみ ……17
2.2　音声波形について ……18
2.3　スペクトル分析 ……24
2.3.1　音声スペクトログラム……24
2.3.1.1　母音のスペクトログラム ……25
2.3.1.2　子音のスペクトログラム ……27
2.4　音声分析ソフトを外国語教育で利用する ……31
2.5　第 2 章のまとめ ……33

第３章　発音のしくみ ……37
3.1　調音器官 ……37
3.1.1　声帯のはたらき……38
3.1.2　口腔内の調音器官……40
3.2　第 3 章のまとめ ……41

第４章　プロソディ ……43
4.1　アクセントとリズム ……43
4.1.1　アクセントとは……43
4.1.2　リズムとは……53
4.2　イントネーション ……61
4.2.1　ピッチとイントネーション……61
4.2.2　イントネーションの表記法……63
4.2.3　音調群……67
4.2.4　イントネーションの種類……69
4.2.5　イントネーションの役割……72
4.3　発話速度とポーズ ……79
4.3.1　音の長さ……79
4.3.2　ポーズ……80
4.3.3　発話速度……83
4.3.4　話者の感情とことば……83
4.4　第４章のまとめ ……84

第５章　母音の発音 ……89
5.1　母音の発音 ……89
5.1.1　舌の持ち上がる位置（前後）による分類……90
5.1.2　舌の持ち上がる高さ（高低）による分類……91
5.1.3　唇の構え（唇の丸めの有無）による分類……95
5.1.4　緊張の有無による分類……96
5.1.5　口（腔）母音と鼻母音……96
5.1.6　単母音と二重母音……96
5.2　日本人英語学習者の不得意な母音の発音 …… 100
5.2.1　/iː/ と /ɪ/ …… 101
5.2.2　/æ/ と /ɑ/ …… 102

5.2.3　/e/ と /æ/ …… 103
5.2.4　/ɑ/ と /ʌ/ …… 104
5.2.5　/ə/ と /ʌ/ …… 104
5.2.6　/ɔː/ と /ɑ/ …… 105
5.2.7　/uː/ と /ʊ/ …… 106
5.2.8　/ɑɚ/ と /ɚː/ …… 107
5.2.9　/ɔː/ と /oʊ/ …… 108
5.3　母音の長さ …… 108
5.4　第 5 章のまとめ …… 111

第 6 章　子音の発音 …… 115
6.1　子音の発音について …… 115
6.2　調音点から見た子音の発音 …… 117
6.3　調音方法から見た子音の発音 …… 119
6.3.1　口音と鼻音 …… 120
6.3.2　閉鎖音 / 破裂音（stop, plosive）/p, b, t, d, k, ɡ/ …… 122
6.3.3　摩擦音（fricative）/f, v, θ, ð, s, z, ʃ, ʒ, h/ …… 131
6.3.4　後部歯茎破擦音（post-alveolar affricate）/tʃ, dʒ/ …… 138
6.3.5　接近音（approximant）/l, r, w, j/ …… 140
6.3.6　鼻音（nasal）/m, n, ŋ/ …… 147
6.4　3 つの観点から見た子音の発音 …… 150
6.5　つながる子音 …… 151
6.5.1　子音連鎖 …… 151
6.6　第 6 章のまとめ …… 157

第 7 章　音声変化 …… 161
7.1　つながる音 …… 161
7.1.1　“r” 連結 …… 163
7.1.2　“n” 連結 …… 164

7.1.3　その他の連結…… 165
7.2　変わる音 …… 167
7.2.1　同時調音…… 167
7.2.2　同化現象…… 169
7.2.3　その他の変わる音…… 179
7.3　弱くなる音 …… 185
7.3.1　強形と弱形…… 185
7.4　聞こえなくなる音 …… 192
7.4.1　確立脱落…… 193
7.4.2　偶発脱落…… 193
7.4.3　閉鎖音の連鎖…… 199
7.4.4　子音が 3 つ以上続く場合…… 200
7.5　第 7 章のまとめ …… 202

第 8 章　様々な英語発音 …… 207
8.1　アメリカ英語とイギリス英語 …… 207
8.1.1　母音の相違…… 209
8.1.2　子音の相違…… 213
8.1.3　プロソディ上の相違…… 217
8.2　日本人の発音―明瞭性の高い発音とは …… 218
8.2.1　学習者の英語発音に対する考え方…… 219
8.2.2　日本人が目指すべき英語発音とは…… 222
8.2.3　プロソディと分節素…… 223
8.3　第 8 章のまとめ …… 230

参考文献…… 233

索引…… 241